

単元名	「器械運動」(跳び箱運動) 目指せ！跳び箱達人への道
学校・学級	三原市立田野浦小学校 第4学年

1 要旨

(1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発な子が多く、全体的に体を動かすことを好み、休憩時間には、鬼ごっこやボールを使った遊びを楽しんでいる。体育の学習においても、男女関係なく、互いに励まし、助け合いながら学習を進めることができている。マット運動や跳び箱運動などの器械運動が好きだと考える児童は全体の52%であり、理由としては、怪我への恐怖や上手く回ることができないなどの理由が挙げられた。

運動への意識や知識・技能に関する実態調査の結果は以下のとおりである。

運動への意識に関する実態調査結果

項目	肯定的回答(人)	主な理由
体育の授業は好きですか。	27 / 29	体を動かすことが好きだから。 色々な運動をすることができるから。 つかれるから。
器械運動は好きですか。	15 / 29	色々な技が出来たら嬉しいから。 うまく回ることができないから。 怪我をすることが怖いから。

運動の知識・技能に関する実態調査結果

項目	規準到達児童(人)	規準に到達できなかった児童の様子
マットの前転をすることができる。	24 / 29	うまく起き上がれない。 勢いが足りない。
開脚跳びをすることができる。	27 / 29	跳び箱に対して恐怖心がある。

(2) 指導上の留意点

場・教具 学習形態、かかわり合い

跳び箱運動に対する恐怖心を取り除いたり、できた達成感を感じさせたりするために、それぞれの課題を解決したりするための練習の場や練習方法を用意する。

運動時に観察役をつけて、観察カードを用いることで、友達のできばえを伝えやすくする。

跳び箱に必要な動きを身に付けさせるために、ゆりかご、ブリッジやかえるの逆立ちなどを主運動前や家庭学習として継続的に取り組ませる。

声かけや台上前転の動きを確認することができるように、ポイントが分かる写真を板書に示す。

台上前転のポイントに気付かせ、自分の課題を明確に持たせるために、うまくできている動きとそうでない動きを比較する場を設定する。

2 本単元の目標

(1) 器械運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知り、基本的な動きや技を身に付けることができる。

【知識及び技能】

(2) 自己の課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器

械・器具の安全に気を付けたりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

3 学習活動に即した評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
開脚跳びの行い方を理解するとともにその動きを身に付けている。 台上前転の行い方を理解するとともにその動きを身に付けている。 首はね跳びの行い方を理解するとともにその動きを身に付けている。	手の着く位置や着地の位置、目線が向く場所などに目印をして、技のできばえを振り返り、自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。 動きのポイントに、友達の良い動きについて学習カードに書いたり、発表したりしている。	跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 きまりを守り、誰とでも仲よく跳び箱運動に取り組もうとしている。 器械・器具の安全を確かめて、進んで友達と一緒に準備や片付けをしようとしている。

本単元は、学習指導要領等に関する移行期間中に、新学習指導要領による指導を先行して行う際の評価基準を設定しています。評定については、現行学習指導要領の下の評価規準に基づいて行います。

4 本時の展開

(1) 本時の目標

友達に動きの良さやつまずきについてポイントをもとに伝えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

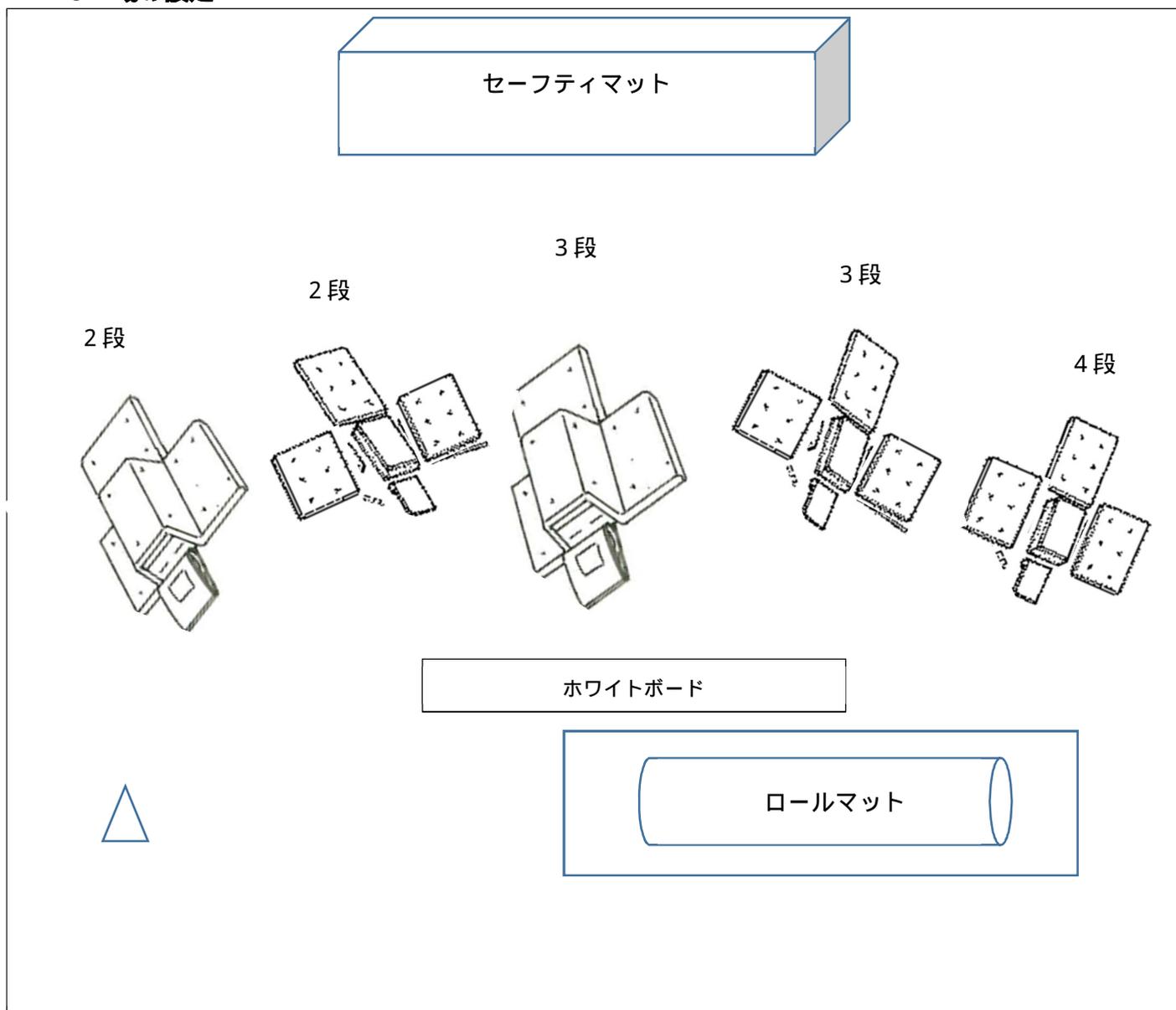
(2) 準備物

マット、セーフティマット、踏切板、跳び箱、リズム太鼓、技の写真、学習カード、筆記用具、ホワイトボード

(3) 学習展開

学 習 活 動	指導上の留意事項 重点的指導法 努力を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
<p>1 学習の進め方と学習課題の確認をする。(6分) 用具の準備をする。 準備運動をする。 慣れの運動をする。 ・ゆりかご ・ブリッジ ・かえるの足打ち</p> <p>2 セーフティマットで練習する。(4分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全に気を付け、グループで協力しながら準備するよう声かけを行う。 よい動きの児童を褒める。慣れの運動を行い、苦手な児童も意欲が高まるようにする。 ポイントを理解させて一つ一つしっかり行わせることで、基礎感覚を十分に養っていくようにする。 セーフティマットを使って腰を上げる練習をする。 	
<p>友だちに動きのよさやつまずきを伝えよう！</p>		
<p>3 台上前転のポイントを交流から確認する。(5分) 両足で強く踏み切りを行う。 両手でしっかりと支える。 腰を高く保つ。 手前で後頭部から回る。</p> <p>4 ポイントをもとに練習する。(18分)</p> <p>5 練習したことを全体交流する。(5分)</p>	<p>板書に残しておくことで児童がいつでも見てふり返りができるように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> よい動きができていない児童の動きとうまくできていない教師の動きを比較させて、動きのポイントを確認させる。 それぞれの場に観察役をつけ、観察カードを記入し、ポイントを確認させながら、安全に気を付けて練習させる。 順番を守って練習しているグループや友達にうまく声かけができていない児童をしっかりと褒める。 恐怖心がある児童や、うまくできない児童には、セーフティマットやロールマット等で練習するように促す。 実態に応じて段数を工夫することで意欲を引き出させる。 何人かの児童に全体の前で行わせ、それをもとにどこがよかったか話し合わせる。 	<p>友達の技を見て、動きのよさやつまずきを伝えることができる。 (行動観察・学習カード)</p>
<p>6 本時のまとめを行う。(7分) 本時のまとめを行う。 学習カードの記入をする。 場の片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全に気を付けながら、グループで協力して片付けるよう声かけを行う。 	

5 場の設定



6 板書計画

9/27 課 友達に動きのよさやつまずきを伝えよう。

台上前転の写真 1

台上前転の写真 2

台上前転の写真 3

台上前転の写真 4

台上前転の写真 5

台上前転の写真 6

台上前転のポイント！

- 1 両足で強く踏みきる。
- 2 両手でしっかりと支える。
- 3 頭の後頭部から回る。
- 4 腰を高く保つ。

